

## 小学校の危機的状況に関する親の認識について

— 子どもたちの心身の安全と安定を守るとりくみ —

岩 瀬 佳代子・小 田 直 巳

(京都教育大学大学院) (京都教育大学大学院)

中 村 道 彦・本 間 友 巳

(京都教育大学) (京都教育大学)

Parents' Awareness about Crises in Elementary Schools:

— Project for Protecting Safety and Stability of Children's Body and Mind —

Kayoko IWASE, Naomi ODA, Michihiko NAKAMURA and Tomomi HONMA

2002年11月30日受理

抄録：学校内における危機的状況が、近年社会問題となっている。危機的状況を防止する体制づくりを進めるために、危機防止プロジェクトを立ち上げ、その活動の一環として、附属小学校の保護者にアンケート調査を行なった。その結果、学校が危機に直面していると感じ、それを見過ごすべきでないと考える保護者が小学校全体の75%にのぼった。そこで保護者全体を危機意識という観点から4群に分け、危機意識の違いを検討した。その結果、危機に直面していると感じ、それを見過ごすべきでないと考える群と、危機に直面しているとは思わないが、危機的状況があれば見過ごしてはならないと考える2群において有意な違いがあることを見出した。その違いは、危機を「家庭のしつけに原因がある」と考える群と、「学校側の管理体制や教師の指導力に原因がある」と考える群との違いであることが認識できた。この2群を合せると全体の90%以上にのぼるが、より保護者が高い意識をもつ手助けとなるように、危機防止のための啓発活動を行なっていく必要があると思われた。

キーワード：危機的状況，防止，意識調査，小学校，保護者

### 1. はじめに

学校内には、いじめ、暴力、不登校、学級崩壊等の様々な危機的状況が存在する。大阪教育大学附属池田小学校の事件を機に、日本における各小学校では危機管理体制への見直しが進み、対策が講じられつつある。「開かれた学校」についても数多くの議論が交わされ、個々の努力がなされている。しかし、青少年白書(内閣府、平成14年度)にもあるように、公立学校においていじめの発生した割合は小学校で14.8%、中学校で44.1%となっている。しかし、平成12年度の調査では解決されないままのケースも小・中学校ともに12%程度あるとされている。また、不登校についても、平成12年度間に30日以上学校を欠席した生徒数は小学生2万6,373人、中学生10万7,913人で前年度間に比べ小学生は1.3%増加、中学生は3.6%増加という事実がある。これらの現実をふまえて、危機的状況を悪化させないためのひとつの対策として、「校内危機防止体制に関するプロジェクト～子ども達の心身の安全と安定を守るために」を立ち上げた。プロジェクトは、危機防止のための活動を「危機的状況をおこさせない」「危機的状況にすばやく対処する」「危機的状況を繰り返させない」という3つの防止次元から計画している(中村ら、2002)。そして学校における教師と保護者の啓発活動を進めるための土台づくりとして、附属校(園)で校内の危機的状況に関する意識調査を行なった。その調査結果に基づき、小学校の保護者の意識についてまとめたので報告をする。

### 方 法

平成13年12月 京都教育大学附属幼稚園・小学校・中学校・高等学校の協力を得て、各校(園)の父母または

養育にかかわる家族に対して、75の質問項目からなるアンケートを実施した。回答用紙は平成14年1月に児童生徒を介して、あるいは直接郵送によって回収した。

## 結 果

合計1937名の親から回答が得られた。幼稚園169名、小学校A 348名、小学校B 371名、中学校A 401名、中学校B 220名、高等学校397名、学校園不明が31名であった。

小学校Aと小学校Bとを合わせた回答の結果は表1に示すとおりである。本報告では危機意識の高いと推定される順に保護者を4群に分け、さらに性別間と群間で比較を試みた。

表1 集計結果（4群比較）

| 小学校全体    |        | Y-N群 (75%) |           | N-N群 (17%) |          | Y-Y群 (7%) |         | N-Y群 (1%) |         |
|----------|--------|------------|-----------|------------|----------|-----------|---------|-----------|---------|
|          |        | 男性         | 女性        | 男性         | 女性       | 男性        | 女性      | 男性        | 女性      |
| 合計人数 566 |        | 185 (33%)  | 239 (42%) | 46 (8%)    | 52 (9%)  | 29 (5%)   | 9 (2%)  | 5 (1%)    | 1 (0%)  |
| 設問1      | 14 Yes | 185 (100)  | 239 (100) | 0 (0)      | 0 (0)    | 29 (100)  | 9 (100) | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 15 No  | 0 (0)      | 0 (0)     | 46 (100)   | 52 (100) | 0 (0)     | 0 (0)   | 5 (100)   | 1 (100) |
|          | 16     | 44 (24)    | 50 (21)   | 0 (0)      | 0 (0)    | 3 (10)    | 1 (11)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 17     | 43 (23)    | 65 (27)   | 0 (0)      | 0 (0)    | 7 (24)    | 2 (22)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 18     | 37 (20)    | 56 (23)   | 0 (0)      | 0 (0)    | 11 (38)   | 1 (11)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 19     | 59 (32)    | 66 (28)   | 0 (0)      | 0 (0)    | 8 (28)    | 5 (56)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 20     | 147 (79)   | 170 (71)  | 0 (0)      | 1 (2)    | 20 (69)   | 7 (78)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 21     | 46 (25)    | 51 (21)   | 0 (0)      | 2 (4)    | 8 (28)    | 3 (33)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 22     | 47 (25)    | 100 (42)  | 0 (0)      | 1 (2)    | 4 (14)    | 1 (11)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 23     | 8 (4)      | 5 (2)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 0 (0)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 24     | 2 (1)      | 1 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 0 (0)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 25     | 18 (10)    | 38 (16)   | 0 (0)      | 0 (0)    | 2 (7)     | 2 (22)  | 0 (0)     | 1 (100) |
|          | 26 Yes | 0 (0)      | 0 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 29 (100)  | 9 (100) | 5 (100)   | 1 (100) |
| 設問2      | 27 No  | 185 (100)  | 239 (100) | 46 (100)   | 32 (62)  | 0 (0)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 28     | 0 (0)      | 1 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 16 (55)   | 3 (33)  | 4 (80)    | 1 (100) |
|          | 29     | 0 (0)      | 1 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 8 (28)    | 3 (33)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 30     | 0 (0)      | 0 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 1 (3)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 31     | 1 (1)      | 0 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 2 (7)     | 2 (22)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 32     | 1 (1)      | 0 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 5 (17)    | 3 (33)  | 2 (40)    | 0 (0)   |
| 設問3      | 33 Yes | 142 (77)   | 190 (79)  | 23 (50)    | 28 (54)  | 22 (76)   | 6 (67)  | 2 (40)    | 0 (0)   |
|          | 34 No  | 43 (23)    | 49 (21)   | 23 (50)    | 24 (46)  | 7 (24)    | 3 (33)  | 3 (60)    | 1 (100) |
|          | 35     | 129 (70)   | 167 (70)  | 20 (43)    | 24 (46)  | 15 (51)   | 5 (56)  | 2 (40)    | 0 (0)   |
|          | 36     | 71 (38)    | 85 (36)   | 18 (39)    | 13 (25)  | 10 (34)   | 3 (33)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 37     | 4 (2)      | 2 (1)     | 0 (0)      | 2 (4)    | 0 (0)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 38     | 39 (21)    | 49 (21)   | 1 (2)      | 5 (10)   | 4 (14)    | 1 (11)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 39     | 61 (33)    | 89 (37)   | 9 (20)     | 10 (19)  | 7 (24)    | 2 (22)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 40     | 24 (13)    | 30 (13)   | 2 (4)      | 2 (4)    | 4 (14)    | 2 (22)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
| 設問4      | 41 Yes | 39 (21)    | 66 (28)   | 21 (46)    | 21 (40)  | 5 (17)    | 2 (22)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 42 No  | 146 (79)   | 173 (72)  | 25 (54)    | 31 (60)  | 24 (83)   | 7 (78)  | 3 (60)    | 1 (100) |
|          | 43     | 52 (28)    | 51 (21)   | 13 (28)    | 14 (27)  | 7 (24)    | 4 (44)  | 3 (60)    | 1 (100) |
|          | 44     | 9 (5)      | 12 (13)   | 0 (0)      | 0 (0)    | 3 (10)    | 1 (11)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 45     | 92 (50)    | 117 (49)  | 13 (28)    | 17 (33)  | 17 (59)   | 6 (67)  | 2 (40)    | 0 (0)   |
|          | 46     | 49 (26)    | 59 (25)   | 8 (17)     | 8 (15)   | 7 (24)    | 3 (33)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 47     | 20 (11)    | 28 (12)   | 4 (9)      | 4 (8)    | 4 (14)    | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
| 設問5      | 48 Yes | 111 (60)   | 138 (58)  | 37 (80)    | 40 (77)  | 17 (59)   | 6 (67)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 49 No  | 74 (40)    | 102 (43)  | 9 (20)     | 12 (23)  | 12 (41)   | 3 (33)  | 4 (80)    | 1 (100) |
|          | 50     | 54 (30)    | 70 (29)   | 5 (11)     | 6 (12)   | 7 (24)    | 3 (33)  | 1 (20)    | 1 (100) |
|          | 51     | 1 (1)      | 1 (0)     | 0 (0)      | 1 (2)    | 0 (0)     | 0 (0)   | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 52     | 25 (14)    | 42 (18)   | 2 (4)      | 5 (10)   | 3 (10)    | 1 (11)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 53     | 1 (1)      | 4 (2)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 0 (0)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 54     | 20 (11)    | 64 (27)   | 5 (11)     | 1 (2)    | 2 (7)     | 1 (11)  | 2 (40)    | 0 (0)   |
| 設問6      | 55 Yes | 8 (4)      | 18 (8)    | 2 (4)      | 2 (4)    | 3 (10)    | 0 (0)   | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 56 No  | 177 (96)   | 221 (92)  | 44 (96)    | 50 (96)  | 26 (90)   | 9 (100) | 4 (80)    | 1 (100) |
|          | 57     | 2 (1)      | 0 (0)     | 1 (2)      | 1 (2)    | 2 (7)     | 1 (11)  | 1 (20)    | 0 (0)   |
|          | 58     | 4 (2)      | 12 (13)   | 2 (4)      | 1 (2)    | 1 (3)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 59     | 3 (2)      | 7 (13)    | 0 (0)      | 1 (2)    | 1 (3)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 60     | 0 (0)      | 1 (0)     | 0 (0)      | 0 (0)    | 1 (3)     | 1 (11)  | 0 (0)     | 0 (0)   |
|          | 61     | 7 (4)      | 5 (2)     | 0 (0)      | 1 (2)    | 0 (0)     | 0 (0)   | 0 (0)     | 0 (0)   |

設問1の「学校（園）において安全を脅かす状況が存在する」ことを肯定（Y）し、かつ設問2の「その状況が存在してもことさら問題にすべきではない」と否定（N）した者を、最も危機意識の高いY-N群（「学校に危機的状況が存在し、しかもその状況を問題にすべきである」と考える群）とした。順次危機意識が低下していくように、設問1と設問2のいずれも否定したN-N群（「学校に危機的状況はないが、もしあれば問題にすべき」と考える群）、設問1と設問2のいずれをも肯定したY-Y群（「危機的状況は存在することさら問題にすべきではない」と考える群）、そして設問1で否定し、設問2で肯定した最も危機意識の低いN-Y群（「危機的状況は存在せず、また存在したとしても問題にすべきではない」と考える群）を分類した。その結果Y-N群に属するものが小学校の保護者全体の75%、N-N群は17%、Y-Y群は7%、N-Y群は1%となった。

危機意識の高いY-N群とN-N群では女性の割合が男性よりも多く、危機意識の低いY-Y群とN-Y群では女性より男性の割合がやや多かった。危機意識の高い上位2群の割合を合計すると92%で、ほとんどの保護者がこの2群の中に含まれる。そこで、本研究では、この上位2群のY-N群とN-N群の比較をおこなった。

設問3の「子どもたちの安全を脅かす状況のある学校（園）では子どもや教師に問題があると思う」に対して肯定した保護者は、Y-N群の男性で77%、女性で79%であり、N-N群では男性50%、女性54%であった。

中でもY-N群の親は、「家庭でのしつけ不足」（項目35）を実感しており、男性・女性のそれぞれ70%がそのことを指摘していた。「教師の指導力不足」（項目36）も男性の38%と女性の36%が実感していた。

一方N-N群で「家庭でのしつけ不足」を実感する親は、男性43%、女性46%とY-N群（男女とも70%）よりも低かった。その反面、「教師の指導力不足」をN-N群の男性39%、女性25%が肯定しており、N-N群はY-N群に比べ、相対的に「家庭の躾不足」よりも「教師の指導力不足」を問題にしていた。

設問4の「子どもたちの安全を脅かす状況は学校（園）の管理体制を強化すれば防げんと思う」に対して肯定した保護者は、Y-N群の男性で21%、女性で28%、N-N群では男性46%、女性40%であった。

下位項目の、子どもの自覚を促すべき（項目45）ということをY-N群の約50%の男女が指摘する一方、N-N群では男性20%、女性33%が指摘するにとどまった。「教師の自覚を促すべき」（項目46）という点においても同様に、Y-N群の方がN-N群よりも指摘する割合が高かった。

設問5の「子どもたちの安全を脅かす状況は家族や教師の努力で防げんと思う」に対して肯定した者は、Y-N群の男性・女性ともに55%であるのに対して、N-N群の男性は84%、女性は87%が肯定していた。

「家族や教師の努力では防げない」と考える者の中で、Y-N群の男女の3割が「安全を脅かす状況は教師や家族の目に触れにくい」（項目50）という理由を選んでいた。

設問6の「子どもたちの安全を脅かす状況は学校（園）の外部に知られないようにするべきと思う」に対しては、Y-N群・N-N群ともに90%以上の者が否定していた。

次いで、各設問の回答についてクロス集計を行なった。「家庭でのしつけ不足」（項目35）と「危機の原因は子どもや教師に問題がある」（設問3）の相関係数はY-N群で0.79、N-N群では0.85という高い値になっていた（表2、表3）。また「教師の指導力不足」（項目36）と設問3との相関を調べたところ、Y-N群では0.42、N-N群では0.68と相関係数は減少した。

さらに「教師の指導力不足」と設問3の相関にはN-N群で性差をみると、男性0.82、女性0.56と男性で高値であった。N-N群の男性では、設問3と「しつけ不足」の相関係数が0.88という高い値を示した。

また、設問3と「管理体制強化で危機が防げる」（設問4）との相関係数は、N-N群でのみ-0.3を越えるかなり強い負の相関がみられた。

設問4と「家族や教師の努力で危機が防げる」（設問5）の相関係数は、Y-N群の男性でのみ、0.36という高い値となった。

表2 Y-N群の特徴

|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境    | 成績中心    | 教師の多忙  | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |
|--------|-------------------------|----------|----------|---------|---------|---------|--------|---------|-------|-----|
| 全<br>体 | 設問3 師子の責任 (YES)         |          |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 家庭での養不足                 | 0.793**  |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 教師の指導力不足                | 0.428**  | 0.41**   |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 悪い環境                    | 0.064    | 0.042    | 0.042   |         |         |        |         |       |     |
|        | 成績中心が問題                 | 0.278**  | 0.2**    | 0.169** | 0.059   |         |        |         |       |     |
|        | 教師の多忙                   | 0.0394** | 0.319**  | 0.215** | 0.053   | 0.197** |        |         |       |     |
|        | 設問4 管理体制強化で防げる (YES)    | -0.175** | -0.178** | 0.007   | -0.021  | -0.102* | 0.032  |         |       |     |
|        | 設問5 家族や教師の努力で防止可能 (YES) | 0.025    | 0.116**  | -0.036  | 0.028   | -0.055  | 0.023  | 0.148** |       |     |
|        | 設問6 学校外部への公開性 (NO)      | 0.058    | 0.038    | 0.031   | -0.032  | 0.074   | 0.072  | -0.022  | 0.042 |     |
|        |                         |          |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境    | 成績中心    | 教師の多忙  | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |
| 男<br>性 | 設問3 師子の責任 (YES)         |          |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 家庭での養不足                 | 0.789**  |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 教師の指導力不足                | 0.445**  | 0.425**  |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 悪い環境                    | 0.075    | 0.015    | 0.023   |         |         |        |         |       |     |
|        | 成績中心が問題                 | 0.283**  | 0.221**  | 0.182** | 0.178** |         |        |         |       |     |
|        | 教師の多忙                   | 0.368**  | 0.269**  | 0.208** | 0.053   | 0.203** |        |         |       |     |
|        | 設問4 管理体制強化で防げる (YES)    | -0.064   | -0.104   | 0.032   | -0.077  | -0.09   | 0.092  |         |       |     |
|        | 設問5 家族や教師の努力で防止可能 (YES) | 0.052    | 0.143*   | 0.046   | 0.007   | -0.038  | -0.076 | 0.06    |       |     |
|        | 設問6 学校外部への公開性 (NO)      | 0.011    | -0.003   | 0.084   | -0.032  | 0.153*  | -0.011 | -0.01   | 0.042 |     |
|        |                         |          |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境    | 成績中心    | 教師の多忙  | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |
| 女<br>性 | 設問3 師子の責任 (YES)         |          |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 家庭での養不足                 | 0.772**  |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 教師の指導力不足                | 0.391**  | 0.373**  |         |         |         |        |         |       |     |
|        | 悪い環境                    | 0.053    | 0.068    | 0.061   |         |         |        |         |       |     |
|        | 成績中心が問題                 | 0.264**  | 0.172**  | 0.148*  | -0.057  |         |        |         |       |     |
|        | 教師の多忙                   | 0.4**    | 0.342**  | 0.217** | 0.057   | 0.201** |        |         |       |     |
|        | 設問4 管理体制強化で防げる (YES)    | -0.219** | -0.199** | 0.011   | 0.048   | -0.096  | 0.006  |         |       |     |
|        | 設問5 家族や教師の努力で防止可能 (YES) | 0.043    | 0.145*   | -0.071  | 0.052   | -0.023  | 0.108  | 0.198** |       |     |
|        | 設問6 学校外部への公開性 (NO)      | 0.072    | 0.051    | -0.012  | -0.031  | 0.033   | 0.094  | -0.022  | 0.052 |     |
|        |                         |          |          |         |         |         |        |         |       |     |
|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境    | 成績中心    | 教師の多忙  | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |

\*p&lt;.05 \*\*p&lt;.01

表3 N-N群の特徴

|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境   | 成績中心   | 教師の多忙   | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |
|--------|-------------------------|----------|----------|---------|--------|--------|---------|---------|-------|-----|
| 全<br>体 | 設問3 師子の責任 (YES)         |          |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 家庭での養不足                 | 0.855**  |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 教師の指導力不足                | 0.681**  | 0.546**  |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 悪い環境                    | 0.151    | 0.168    | 0.223*  |        |        |         |         |       |     |
|        | 成績中心が問題                 | 0.153    | 0.215*   | 0.125   | -0.032 |        |         |         |       |     |
|        | 教師の多忙                   | 0.507**  | 0.436**  | 0.192*  | -0.063 | 0.096  |         |         |       |     |
|        | 設問4 管理体制強化で防げる (YES)    | -0.343** | -0.31**  | -0.211* | 0.018  | -0.05  | -0.178  |         |       |     |
|        | 設問5 家族や教師の努力で防止可能 (YES) | 0.127    | 0.142    | 0.093   | 0.045  | 0.019  | 0.049   | 0.274** |       |     |
|        | 設問6 学校外部への公開性 (NO)      | 0.212*   | 0.237*   | -0.012  | -0.027 | 0.166  | 0.033   | 0.029   | 0.021 |     |
|        |                         |          |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境   | 成績中心   | 教師の多忙   | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |
| 男<br>性 | 設問3 師子の責任 (YES)         |          |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 家庭での養不足                 | 0.889**  |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 教師の指導力不足                | 0.82**   | 0.678**  |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 悪い環境                    | .a       | .a       | .a      |        |        |         |         |       |     |
|        | 成績中心が問題                 | 0.151    | 0.17     | -0.106  | .a     |        |         |         |       |     |
|        | 教師の多忙                   | 0.494**  | 0.452**  | 0.392** | .a     | -0.064 |         |         |       |     |
|        | 設問4 管理体制強化で防げる (YES)    | -0.324*  | -0.379** | -0.309* | .a     | 0.155  | -0.015  |         |       |     |
|        | 設問5 家族や教師の努力で防止可能 (YES) | 0.141    | 0.079    | 0.036   | .a     | 0.077  | 0.13    | 0.361** |       |     |
|        | 設問6 学校外部への公開性 (NO)      | 0.214    | 0.241    | 0.053   | .a     | 0.7**  | -0.094  | 0.021   | -0.14 |     |
|        |                         |          |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境   | 成績中心   | 教師の多忙   | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |
| 女<br>性 | 設問3 師子の責任 (YES)         |          |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 家庭での養不足                 | 0.813**  |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 教師の指導力不足                | 0.563**  | 0.434**  |         |        |        |         |         |       |     |
|        | 悪い環境                    | 0.218    | 0.241    | 0.39**  |        |        |         |         |       |     |
|        | 成績中心が問題                 | 0.171    | 0.264*   | 0.32*   | -0.059 |        |         |         |       |     |
|        | 教師の多忙                   | 0.497**  | 0.392**  | 0.008   | -0.088 | 0.183  |         |         |       |     |
|        | 設問4 管理体制強化で防げる (YES)    | -0.369** | -0.26    | -0.112  | 0.047  | -0.118 | -0.37** |         |       |     |
|        | 設問5 家族や教師の努力で防止可能 (YES) | 0.154    | 0.188    | 0.103   | 0.069  | 0.043  | 0.039   | 0.268*  |       |     |
|        | 設問6 学校外部への公開性 (NO)      | 0.214    | 0.238    | -0.097  | -0.038 | -0.061 | 0.16    | 0.045   | 0.068 |     |
|        |                         |          |          |         |        |        |         |         |       |     |
|        |                         | 師子の責任    | 養不足      | 指導力不足   | 悪い環境   | 成績中心   | 教師の多忙   | 管理強化    | 防止可能  | 公開性 |

\*p&lt;.05 \*\*p&lt;.01

上記の関連の意味を考える上で参考とするため、アンケート用紙に記された自由記述を整理した。まず、設問1の「危機的状況が存在しているかどうか」については、学外からの要因としては大阪教育大学附属池田小学校の事件の影響が色濃く、「外部からの侵入に対して不安をもつ」という意見(5)、子ども側の要因としては、「学級崩壊」をあげる意見(3)、「もの隠しや仲間はずれ」を指摘する意見(2)がみられ、学校側の要因としては「エリート意識や競争」「教師の資質」、社会的な要因としては、「規範性の衰退」などがあげられていた。

設問2の「危機的状況があっても問題にすべきでない」と答えた人はこれを「稀な問題である」、あるいは「命の危険のあることや人権上の問題があること以外は子ども達同士で解決すべきだ」としていた。

設問3の「子どもや教師に問題があると思う」に対しては、「教師だけでなく今のおとな、マスコミ、社会全体が問題」(10)、「教師の資質」(5)、「家庭と学校との関係が不十分」(3)、「1クラスの人数の多さが教師の限界を超えている」(3)「家庭での親子のかかわりが不足」(2)など、危機の原因を特定できず、漠然と社会に問題があるとする意見が多くみられた。

設問4の「管理体制強化」では危機が改善しないという理由として、設問3と同じく、「社会全体を変える必要」を訴える意見(9)をはじめ、「家庭と学校との連携不足」(5)「家庭での親子のかかわり不足」(3)が根本にあることを指摘する意見が大半を占め、「管理してもその場しのぎでおわってしまう」という意見や、「個人の自覚を促すことが大切だ」とする意見が他にみられた。

設問5の「家族や教師の努力で防げる」かどうかに対する意見も、「社会全体に問題があるので努力にも限界がある」(12)とする意見が大半であった。自由記述全体をとおして、社会的要因が危機的状況にかかわるとする視点がもっとも目立ったが、ついで家庭(親)と学校(教師)のかかわりを求める親の多いことが注目された。

## 考 察

小学校児童の保護者がいじめや暴力・不登校やひきこもり・自傷行為や自殺などの校内の危機的状況に対してどのような意識をもっているのかを検討した。この検討にあたり、保護者を危機意識の強さによって4群に分類し、ことに危機意識が高いと思われる上位2群を比較した。すなわち危機意識のもっとも高いと思われるY-N群、それに次ぐ危機意識を有するN-N群であった。

N-N群は、実際に学校内には危機的状況はないと考えるグループである。この人達は、もし危機的状況が生じればそれは親や教師の責任と考える傾向があった。一方、Y-N群は実際に危機的状況が校内に発生していると考えている群で、その状況が発生するのは主に親のしつけの問題と考える傾向があった。すなわち、危機的状況を実感している親は、教師の指導力よりも親のしつけを問題とする傾向がみられたことは注目に値する。

N-N群の男性では、親や教師に責任を考えているものは40%前後であったが、親と教師の責任を同等に実感している点で、他の者よりも異なっていた。しかもこのN-N群の男性は危機的状況の存在を認めていないことに示唆されるように、子どもの現状に関する情報の少なさが親の責任に比べ教師の責任を強く考える傾向を作り出しているのかもしれない。

アンケートにおける自由記述の中でも「家庭での親子のかかわりが必要だ」、「家庭と学校との連携をもっと密にするべきだ」とする意見が多くみられた。このことは、女性より男性に、またY-N群よりN-N群に強く望まれていることばであろう。「女性よりも男性の方が親や教師の責任を強く実感しているのは、父子のかかわりが少ないことに原因する」という考えは、総務庁青少年対策本部の「こどもと両親との話し合いの割合の比較」によっても支持される。すなわち子が父親と話す割合は、「非常によく話す」は、男性で19.9%、女性で22.3%であったが、母親と話す割合では、「非常によく話す」は男性39.6%、女性61.2%と大きな開きがあった。「話す方だ」の項目を加えても、父と話す割合は男性70.2%、女性69.7%に対し、母と話す割合は男性90%、女性94.4%とその差は大きい。

「子どもとのふれあい」に関する国際比較においても、他の国(アメリカ、イギリス、フランス、タイ、韓国)に比べて日本の親は子をあまり理解できていないことも示され、外国に比して日本での親子のかかわりの度合いが低いことが感じられた。

上述したように、「親子の接触不足」により、親は躰不足を感じたり、子を理解しづらいと感じている。それゆ

え学校に危機的状況があったとしてもそれに気づくことすらないのであろう。

危機的状況が起こった場合、その対策として管理体制を強化することを求める親の割合がY-N群よりもN-N群で多く、しかも危機防止には親や教師の努力を重視する傾向が見られた。さらにいずれの群でも管理体制の強化を求める親は親や教師の責任を問わない傾向が見られたが、ことにN-N群は男女共にこの傾向が顕著であった。すなわちN-N群は、親の責任よりも学校の管理体制の問題を意識している人たちであった。さらに親や教師の努力で危機防止が可能と考える親はY-N群で6割、N-N群で8割であり、N-N群でより楽観的な見方がみられた。一方、親や教師の努力では防止できないと考える親の中で、危機的状況が見えにくいことを理由にする親は、Y-N群3割、N-N群で1割とY-N群に多かった。すなわち危機的状況の存在を認めているY-N群は、この問題を把握することの難しさを実感している人たちであるが、N-N群は現実を見とどけることなく危機的状況の存在を否定する人たちであろう。

このことからN-N群は人まかせで危機的状況が改善に向かうであろうという楽観主義の立場でいること、Y-N群は、管理強化で危機的状況が改善されるものではなく、自分たちの家庭のしつけから改善しなければならないという考え方でいることも読み取れる。つまり、Y-N群の方がより現実に即した対処や方法を考えようとしていることを示していると思われる。

以上のことから、男性よりも女性の方が育児に積極的に関わっているため、危機意識が高いこと、またN-N群よりもY-N群が現実をよく見ており、単なる管理強化で事が解決するのではないという認識をもっていることが理解できた。つまりこのY-N群とN-N群の違いは、子どもや学校への現実的な理解の差によるものである。

しかしながらこのような現実的な対処を目指す保護者は全体の75%と、過半数を占めるものの、残る1/4の保護者では危機意識を高める必要があると思われた。そのためにはまず危機的状況の存在を看過することなくまたその状況を脅威とうけとめて圧倒されることもなく現実を見定め、その解決に立ち向かうように促す啓発活動が必要であると思われた。

#### 引用・参考文献

- 1) 総務庁青少年対策本部 (1987) 日本の子どもと母親. 大蔵省印刷局: 東京
- 2) 中村道彦・明石智子・本間友巳・高屋定房・岩瀬佳代子・梅藤裕子・小田直巳・河合由美・小正浩徳・山口美穂・山本真澄 (2002) 校内の危機的状況に対する保護者の意識調査の報告. 京都教育大学紀要 101: 51-62
- 3) 内閣府 (2002) 青少年白書. 財務省印刷局: 東京